

文書番号 CE-210-26A

発行日 2026.05.02

エコアクション21 環境経営レポート

2025年度（期間2025/4～2026/3）



ケミコン東日本株式会社エンジニアリング事業部

〒198-0042 東京都青梅市東青梅1-7-6

Tel 0428-24-3830(代表) Fax 0428-24-8599

1. 組織の概要

(1) 事業者名

ケミコン東日本株式会社エンジニアリング事業部

(2) 代表者名

事業部長 中田 透

(3) 所在地

青梅事業所 〒198-0042 東京都青梅市東青梅1-7-6

(4) 環境管理責任者及び連絡先

環境管理責任者 湯上 賢

連絡先 Tel 0428-24-3830(代表) Fax 0428-24-8599

(5) 資本金

40,000万円(ケミコン東日本株式会社)

(6) 事業の規模

従業員数 39名(2026年3月現在)

(7) 事業内容

各種精密部品加工、販売

合理化、省力化機器設計及び製作、販売

2. 対象範囲

青梅事業所

3. 環境経営方針

当社は、環境経営方針を以下の通り定め、これに基づき行動します。

文書番号 CE-101-25A

環境経営方針

ケミコン東日本(株)エンジニアリング事業部は、日本ケミコングループの国内設備製作会社として『日本ケミコン環境基本方針』に基づき環境保全活動に取り組んでいきます。併せて経営における課題とチャンスの明確化を考慮し、この環境経営方針をケミコン東日本(株)エンジニアリング事業部全事業所の活動方針として制定致します。

1. 環境経営方針を達成するために、適切な組織の構築、必要な人的・物質的資源を整え、目標を定め継続的改善および環境負荷の削減に取り組みます。
環境経営方針ならび環境経営目標は、それぞれ可能な範囲で経営における課題とチャンスを踏まえ整理、明確化し、毎年定期見直しを行なうとともに必要な場合は臨時見直しを行います。
2. 環境関連の法規、条例を遵守し当社が設定した目標に向け継続的に取り組みます。
3. 全従業員がこの方針に従い、各事項に対し積極的に環境管理活動を展開します。
4. 当社の事業活動が環境に影響を与える以下の項目に取り組みます。
 - ①カーボンニュートラル対応並びに省エネルギー推進(CO2削減)
 - ②廃棄物の削減およびリサイクルの推進
資源の有効活用とプラスチックを含む廃棄物の3R(リデュース、リユース、リサイクル)推進
 - ③水使用量の削減(節水)
 - ④化学物質の管理(【入れない】・【使わない】・【出さない】・【混ぜない】の徹底)
 - ⑤グリーン調達推進(【入れない】・【使わない】・【出さない】・【混ぜない】の徹底)
 - ⑥自社製品の環境配慮(顧客満足度向上のための対応力強化)
5. 生物多様性への対応として、生物多様性保全活動を推進、展開するとともに地域及び企業間連携に取り組みます。
6. 環境事故、自然災害時等の環境リスク並びに気候変動リスクについて、発生時の対応及び予防に努め、その発生時の影響を最小限に抑える組織を確立し、維持します。
7. 環境経営方針は文書化し、教育訓練および日常の活動を通じて、当社で働く全ての人に周知・徹底をはかるとともに社外にも公表致します。

2025年4月1日

ケミコン東日本株式会社エンジニアリング事業部
事業部長

代表者署名

中田 透

4. 環境経営目標

当社における2012年度実績を基準とし、2023年度から2025年度までの中期目標を設定

項目	基準	中期目標		
	2012年度実績	2023年度	2024年度	2025年度
1) 省エネルギーの推進 (CO2の削減)	2,638 Kg-CO2/人	2,261 Kg-CO2/人	2,238 Kg-CO2/人	2,216 Kg-CO2/人
①電力使用量		2012年度	2012年度	2012年度
②灯油		実績平均比	実績平均比	実績平均比
③液化石油ガス(LPG) ④ガソリン		14.3%削減	15.1%削減	16.0%削減
2) 廃棄物の削減及びリサイクルの推進	0.078 t/人	0.071 t/人	0.071 t/人	0.035 t/人
①一般廃棄物(可燃、不燃ごみ)		2012年度	2012年度	2012年度
②廃プラスチック		実績平均比	実績平均比	実績平均比
③廃油・廃液 ④廃鉄(金属くず、配膳くず) ⑤段ボール等(資源ゴミ) ⑥木屑		8.8%削減	8.8%削減	55.1%削減
3) 水使用量の削減	8.59 m ³ /人	7.82 m ³ /人	7.82 m ³ /人	7.82 m ³ /人
①下水道		2012年度	2012年度	2012年度
		実績平均比	実績平均比	実績平均比
		9.0%削減	9.0%削減	9.0%削減
4) 化学物質の管理		PRTR法に該当する量の化学物質が使用されていないか監視する。代替えなどの可能性を探り、不可能な場合正しい届出がされているかの確認をする。		
①化学物質の監視				
5) グリーン調達		製品を製造するために必要な原材料、部品、設備などを調達する時、環境負荷の少ないものから優先的に選ぶ。		
6) 自社製品の環境配慮		設計案件に対してのRoHS・省エネ対応部品明細表の使用状況を月次で把握し、不備があった場合その理由を明確にする。		
7) 生物多様性への対応		生物多様性保全活動を推進、展開。		

※CO2排出係数は、0.378→0.463Kg-CO2/kWhを使用(2020年度より)し、毎年1%削減する。

※廃棄物は、過去5年の廃棄量の平均値が0.024t/人だったので昨年度の目標値から50%の削減(0.071⇒0.035t/人)を目標としています。

※水使用量は、2012年度実績値より約8.0%削減した値を3か年の目標としています。

※今期は中期計画3か年の3年目として活動を実施しております。

5. 環境経営計画(2025年度)

(1) 省エネルギーの推進 (CO2の削減)

- ①空調設定温度管理徹底(夏季28℃、冬季20℃)節電対策
- ②照明、OA機器の節電、省電力設定の徹底
- ③簡易間仕切り、作業エリアの分割、限定推進
- ④社有車エコ運転の徹底及び教育
- ⑤社有車自主定期点検の徹底(事故防止・燃費向上:毎月1回)
- ⑥コンプレッサ-エア-点検・整備(毎月1回)実施
- ⑦コンプレッサ-エア-漏れ点検(5・12月、年2回)実施
- ⑧空調機器フィルター清掃点検(6・12月、年2回)実施
- ⑨第二種圧力容器定期自主点検(5・12月、年2回)実施
- ⑩工作機械定期自主点検(4・10月、年2回)実施
- ⑪省エネルギーの推進(深堀)

(2) 廃棄物の削減及び3R(リデュース、リユース、リサイクル)の推進

- ①段ボールのリサイクル徹底(非焼却)
- ②古新聞・古雑誌等のリサイクル徹底(非焼却)
- ③緩衝剤、木材パレットの再利用
- ④事務用紙の再利用／リサイクルの徹底
- ⑤部品梱包の簡略化／削減
- ⑥廃棄物置場点検(毎月1回)実施
- ⑦廃棄物の削減及びリサイクルの推進(深堀)

(3) 水使用量の削減(節水)

- ①各蛇口の節水、ルールの徹底
- ②水道メータ点検(毎月2⇒3回)実施
- ③蛇口等の水漏れ点検(5・8・11・2月⇒4・6・8・10・12・2月、年4⇒6回)実施
- ④埋設配管点検(6・12月、年2回)実施
- ⑤水使用量削減(深堀)

(4) 化学物質の管理

- ①新たな化学物質使用の監視・確認
- ②化学物質一覧表の見直し、更新(9・3月、年2回)
- ③灯油置場点検(毎月1回)実施
- ④薬品油類置場点検(毎月1回)実施
- ⑤フロンガス使用機器点検(4・7・10・1月、年4回)

(5) グリーン調達への推進

- ①グリーン調達一覧表の見直し、更新
- ②部品のRoHS検査の実施(RoHS対応証明できないものは日本ケミコン材料解析GIに依頼)

(6) 自社製品の環境配慮

- ①RoHS・省エネ対応部品明細使用の遵守・確認
- ②小型化、長寿命化、部品数削減等の推進
- ③省エネ部品使用の推進・深堀

(7) 生物多様性への対応

- ①巣箱の設置、観察(野鳥の保護)毎月1回
- ②植樹・モッコクの木観察(野鳥の保護)
観察毎月1回、4月～9月(原則毎月消毒)
- ③教育DVDを視聴し、環境に対する意識を高める

6. 環境経営目標の実績と評価

項目	単位	2012年度 実績値(基準)	2025年度(2025/4~2026/3)		
			目標 (絶対値)	実績 (絶対値)	評価
1)省エネルギーの推進 (CO2の削減)	kg-CO2/人 (kg-CO2)	2,638	2,216 (107,966)	1,931 (93,986)	○
2)廃棄物の削減及びリサイクルの推進	t/人	0.078	0.035	0.024	○
3)水使用量の削減	m3/人	8.59	7.82	6.94	○
4)化学物質の管理	—	—	新たな化学物質の使用の監視	薬品リスト漏れのブラックシール(黒染め塗料)の危険物対象薬品をリスクアセスメントし評価を行った。	○
5)グリーン調達への推進	—	—	原材料、部品、設備などを調達する時、環境負荷の少ないものから優先的に選ぶ	毎月漏れなく実施	○
6)自社製品の環境配慮	—	—	毎月のRoHS・省エネ明細の使用把握と不備理由の明確化	毎月漏れなく実施	○
7)生物多様性への対応	—	—	生物多様性保全活動を推進、展開	毎月漏れなく実施	○

評価判定 ○・・・目標達成 ×・・・目標未達成

1)省エネルギーの推進 (CO2の削減)

結果:2012年度実績値に対して26.9%削減(前年比の削減率25.6%に比べ+1.3ptとなり)今期目標に対して(2024年度目標比2pt削減)大幅に達成している。

コメント:本年度の削減率(昨年度の実績は1963kg・CO2/人)は昨年の大幅な削減結果(2048→1963kg・CO2/人)とはなりませんでしたが、従業員の方々の節電意識が高まった結果である。

2)廃棄物の削減及びリサイクルの推進

結果:本年度は0.071⇒0.035t/人と目標値を変更した → 排出量は目標値に対して73.9%と達成している。

コメント:一般廃棄物量が昨年1.39tから今年0.95tへ減少。リサイクルも廃棄量はかなり減少(2.6→1.7t)した。

本年度は仙台事業所分もなくなり2021年度より開始された雑紙、プラスチックの分別化雑草の乾燥廃棄等の従業員の方々の意識が根付いてきた現れだと想定される。

3)水使用量の削減

結果:2012年度実績値に対して9.0%削減目標 → 12年度実績の33.2%削減(500→334.4m³)

コメント:水使用量ですが、昨年420.9m³から今年334.4m³と減少。今年毎月の使用量でも目標値を超えたことが1回しかなく(超えても軽度)水漏れは一度もなかったのが大きな要因です。

4)化学物質の管理

結果:7月に黒染め塗料のブラックシールが薬品リストから漏れていたため危険物対象物質をリスクアセスメントにて評価し対応。

5)グリーン調達の推進

結果:グリーン調達一覧表の見直し、更新(年1回:3月)

部品のRoHS検査の実施(年1回:7月)

6)自社製品の環境配慮

結果:毎月漏れなく、RoHS・省エネ明細(環境対応部品明細)の使用を遵守

7)生物多様性への対応

結果:毎月巡回実施、巣箱の状況、モッコクの木成長を確認

社員への啓蒙活動の一環としてビデオ視聴を実施

※ 各項目の実績に関する人数内訳は以下とする。ケミコン東日本(株)エンジニアリング事業部従業員=以下当社従業員とする
省エネルギーの推進・水使用量の削減=実績値/[当社従業員+長期出張者(1ヶ月/2以上の滞在者)+(株)サンキデン様従業員]
廃棄物の削減=実績値/[当社従業員+長期出張者(1ヶ月/2以上の滞在者)]

7. 環境経営計画の2025年度取組結果、次年度(2026年度)の取組内容

(1) 省エネルギーの推進 (CO2の削減)

2025年度取組内容及び結果		
環境経営計画	評価	実施内容
① 空調の設定温度管理の徹底、節電対策	○	表示、朝礼等で冬20℃、夏28℃を徹底
	○	夏場のエアコンタイミン30℃実施
	○	扇風機等を積極的に活用
	○	朝晩など積極的に外気取り入れを推進
	○	よしず、すだれ、グリーンカーテンを設置
② 照明、OA機器の節電、省電力設定の徹底	○	昼休み時の消灯、不在時の消灯の徹底、実施可能なコピー機、プリンター、PCは全て省電力設定に変更。第一工場のLEDへの更新拡大
③ 簡易間仕切り、作業エリアの分割、限定推進	○	カーテン等で使用エリアの分割、限定を実施
④ 社有車エコ運転の徹底	○	表示等でのエコ運転、燃費順の優先使用徹底
⑤ 社有車自主定期点検の徹底	○	毎月点検実施、事故防止、燃費向上を図る
⑥ コンプレッサーのエア一点検/整備の実施	○	毎月点検を実施
⑦ コンプレッサーのエア漏れ点検の実施	○	半年毎に実施
⑧ 空調機器フィルター清掃点検の実施	○	半年毎に実施
⑨ 第二種圧力容器定期自主点検の実施	○	半年毎に実施
⑩ 工作機械定期自主点検の実施	○	半年毎に実施
⑪ 省エネルギーの推進・深堀(新規)	○	毎月実施(待機電力削減、環境関連設備投資による電力削減効果確認)

2026年度(次年度)の取組内容		
環境経営計画及び取組内容		特記事項
① 空調の設定温度管理の徹底、節電対策		継続
② 照明、OA機器の節電、省電力設定の徹底		継続
③ 簡易間仕切り、作業エリアの分割、限定推進		継続
④ 社有車エコ運転の徹底		継続
⑤ 社有車自主定期点検の徹底		継続
⑥ コンプレッサーのエア一点検/整備の実施		継続
⑦ コンプレッサーのエア漏れ点検の実施		継続
⑧ 空調機器フィルター清掃点検の実施		継続
⑨ 第二種圧力容器定期自主点検の実施		継続
⑩ 工作機械定期自主点検の実施		継続
⑪ 省エネルギーの推進・深堀		継続

(2) 廃棄物の削減及びリサイクルの推進

① 段ボールのリサイクル徹底(非焼却)	○	分別ルールの徹底実施
② 古新聞・古雑誌等のリサイクル徹底(非焼却)	○	分別ルールの徹底実施
③ 緩衝材、木材パレットの再利用	○	置場の設置、継続
④ 事務用紙の再利用/リサイクルの徹底	○	シュレッダーにかけて再資源化実施
⑤ 部品梱包の簡略化/削減	○	業者への簡略化協力依頼表示実施
⑥ 廃棄物置場点検の実施	○	毎月点検を実施
⑦ 廃棄物の削減及び3Rの推進・深堀(新規)	○	毎月実施(社内落ち葉を乾燥し重量を削減)

① 段ボールのリサイクル徹底(非焼却)		継続
② 古新聞・古雑誌等のリサイクル徹底(非焼却)		継続
③ 緩衝材、木材パレットの再利用		継続
④ 事務用紙の再利用/リサイクルの徹底		継続
⑤ 部品梱包の簡略化/削減		継続
⑥ 廃棄物置場点検の実施		継続
⑦ 廃棄物の削減及び3Rの推進・深堀		継続

(3) 水使用量の削減

① 各蛇口の節水、ルールの徹底	○	節水表示により徹底
② 蛇口等の水漏れ点検	○	3か月⇒2か月毎に実施
③ 水道メーター点検	○	1か月に2回⇒3回実施
④ 埋設配管点検の実施	○	半年毎に実施
⑤ 水使用量の削減・深堀(新規)	○	毎月実施

① 各蛇口の節水、ルールの徹底		継続
② 蛇口等の水漏れ点検		継続
③ 水道メーター点検		継続
④ 埋設配管点検の実施		継続
⑤ 水使用量の削減・深堀		継続

(4) 化学物質の管理

① 新たな化学物質使用の監視・確認	○	1年を通してPRTR法の該当品はないことを確認
② 化学物質一覧表の見直し、定期更新	○	年2回更新実施
③ 灯油置場点検の実施	○	毎月点検を実施
④ 薬品油類置場点検の実施	○	毎月点検を実施
⑤ フロンガス使用機器点検	○	年4回、空調機等簡易定期点検を実施

① 新たな化学物質使用の監視・確認		継続
② 化学物質一覧表の見直し、定期更新		継続
③ 灯油置場点検の実施		継続
④ 薬品油類置場点検の実施		継続
⑤ フロンガス使用機器点検		継続
⑥ 対象物質の保護具着用の監視		新規

(5) グリーン調達への推進

① グリーン調達一覧表の見直し、定期更新	○	年1回更新実施
② 部品のRoHS検査の実施(新規)	○	年1回更新実施。発注時における外部業者によるRoHS検査証明書発行による確認

① グリーン調達一覧表の見直し、定期更新		継続
② 部品のRoHS検査の実施		継続

(6) 自社製品の環境配慮

① 環境部品明細(RoHS対応、省エネ)使用の遵守・確認	○	新規設計案件において、遵守率100%を達成。省エネ機器の選定9件実施
② 小型化、長寿命化、部品点数削減の推進	○	表示及び設計開始時、検図時の確認を実施
③ 省エネ部品使用の推進・深堀(新規)	○	年2件実施

① 環境部品明細(RoHS対応、省エネ)使用の遵守・確認		継続
② 小型化、長寿命化、部品点数削減の推進		継続
③ 省エネ部品使用の推進・深堀		継続

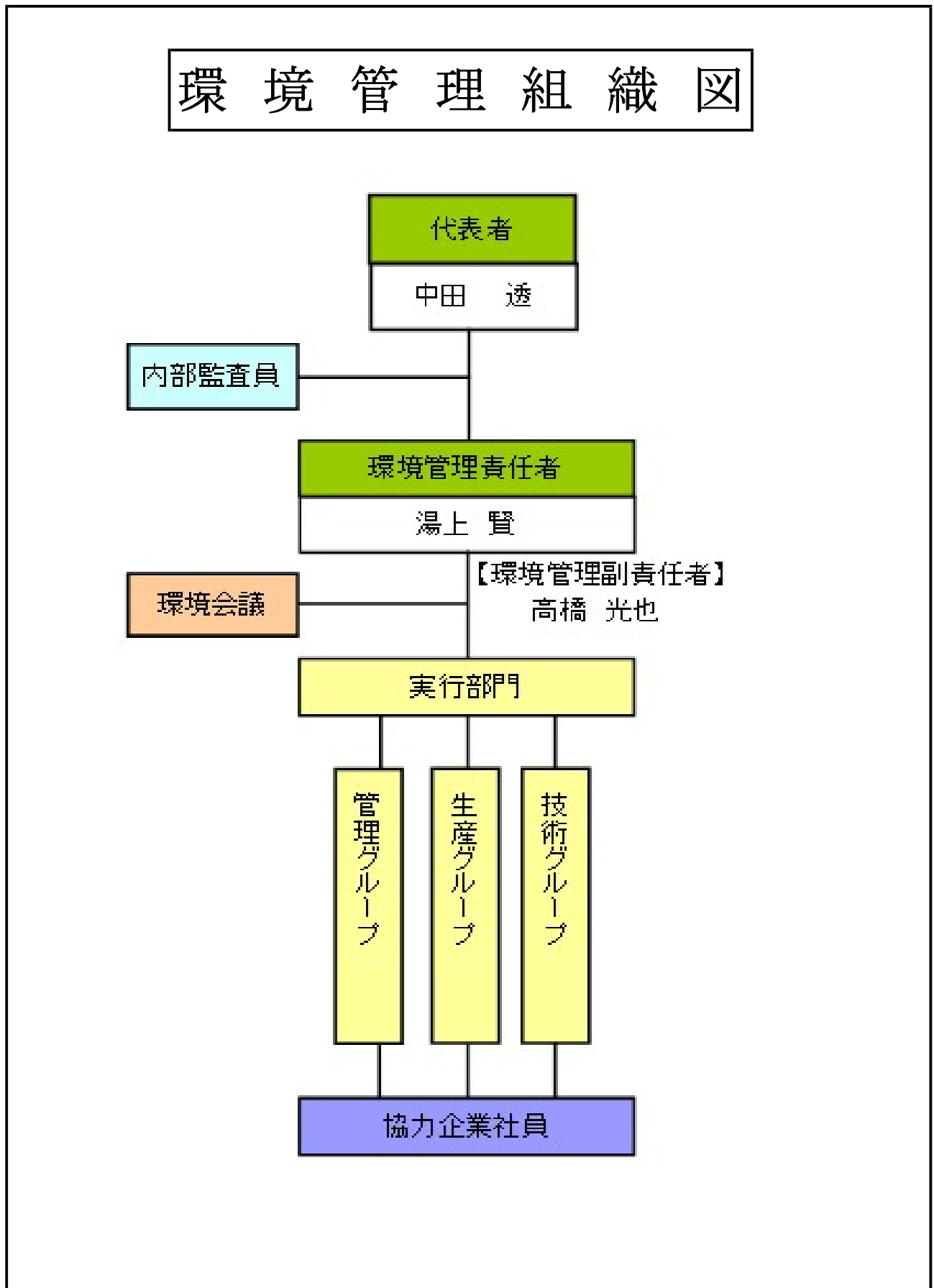
(7) 生物多様性への対応

① 巣箱の設置(野鳥の保護)	○	毎月1回巡回を実施
② 植樹・モッコクの木(野鳥の保護)	○	毎月1回巡回を実施及び4~9月消毒を行う
③ 教育VTR視聴(生物多様性について)(新規)	○	年1回実施

① 巣箱の設置(野鳥の保護)		継続
② 植樹・モッコクの木(野鳥の保護)		継続
③ 教育VTR視聴(生物多様性について)		継続

取組結果の凡例: ○実施 △不十分 ×未実施

8. 環境経営計画の実施体制

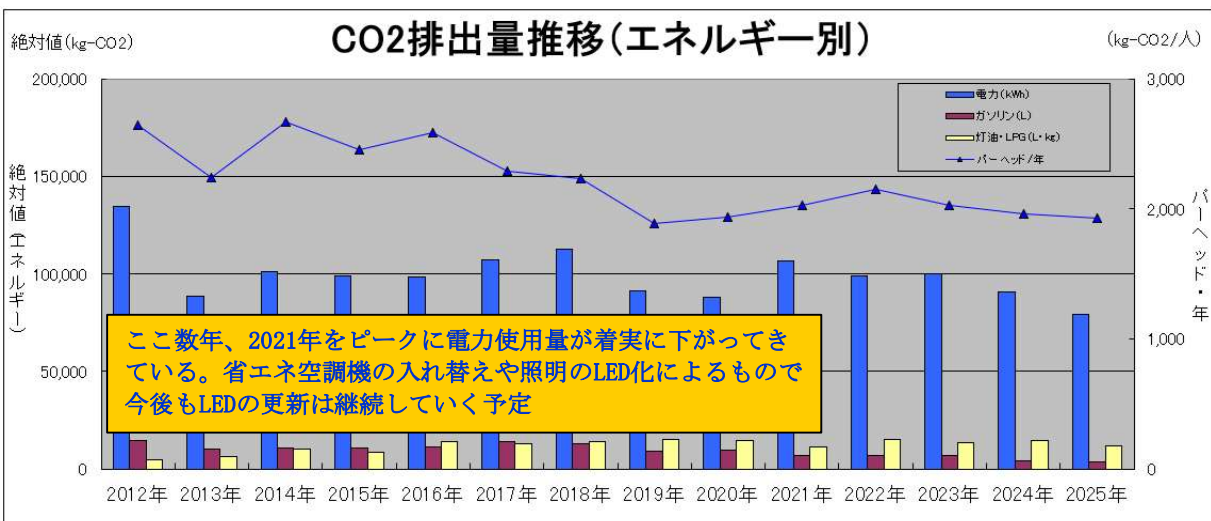
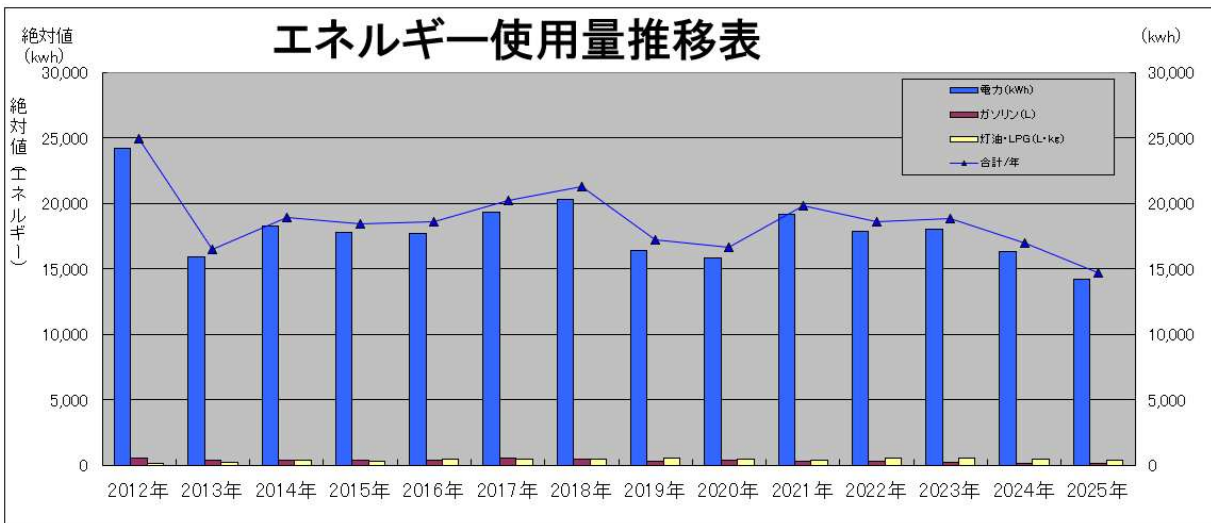
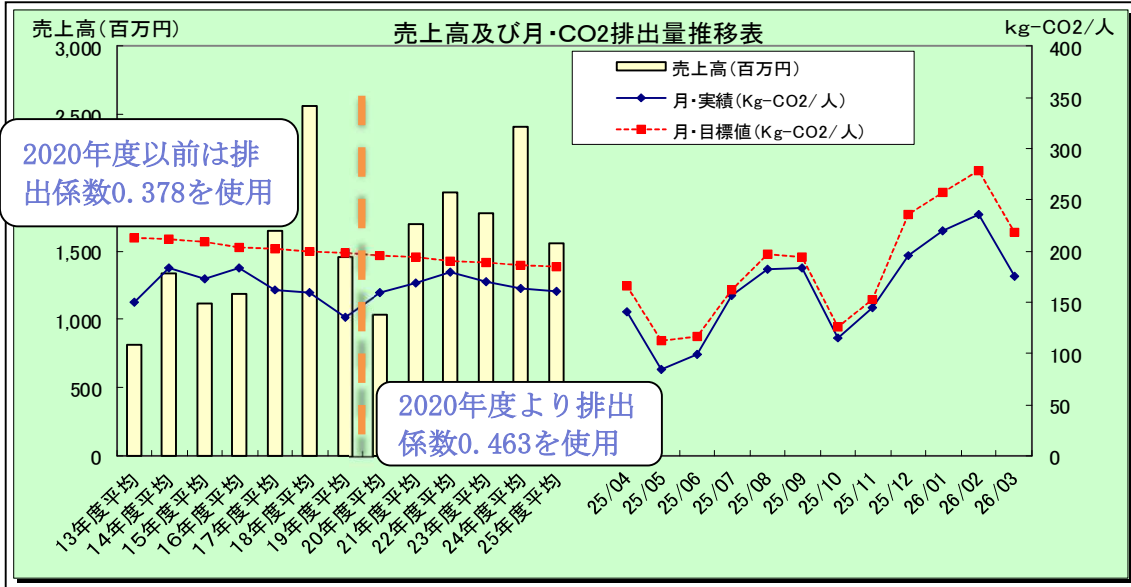


EA21活動

活動内容の紹介

2025年度は昨年度同様、寒暖差がなく過ごしやすい年でしたので月々の目標値をオーバーしませんでした。2022年度より着実に年間のCO2排出量も削減されており（2022年度179.0→2025年度160.9kg-CO2/人）、2025年度も照明のLED化、高効率化エアコンの入替を実施し、こまめな節電を心がけ省エネルギーを進めて参りました。

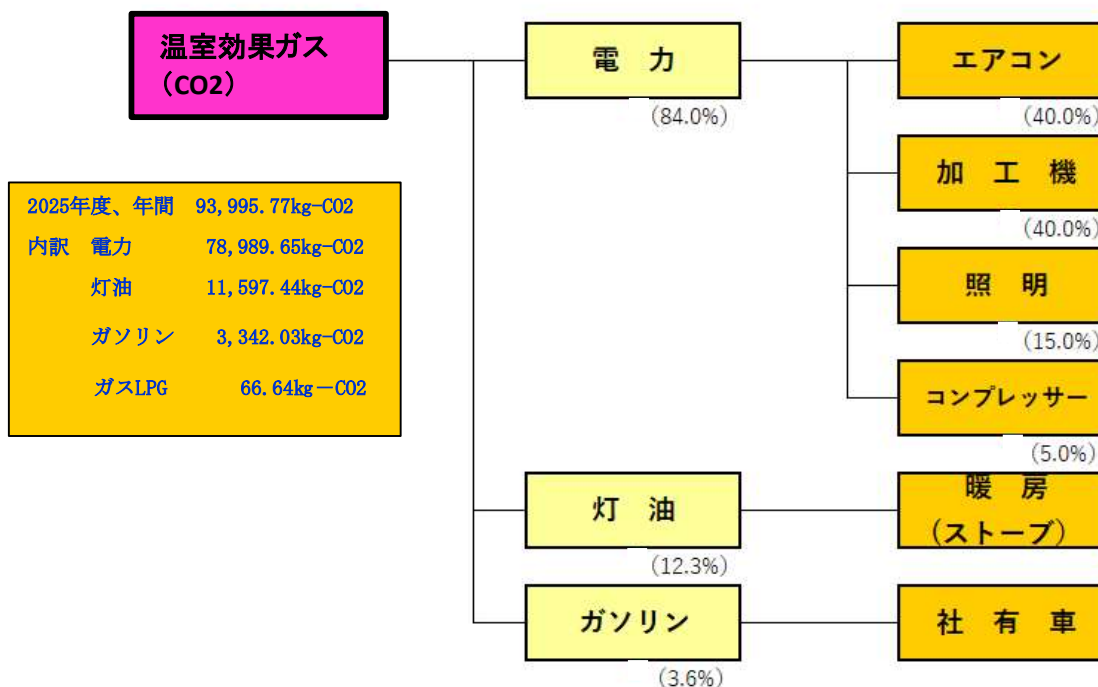
(1) 省エネルギーの推進(CO2削減)



活動内容の紹介

(1)省エネルギーの推進(CO2削減)

*温室効果ガス内訳



*現在、活動継続中

導入・設置年月	省エネ対策内容
2013年	暖房マニュアル作成(暖房開始時間の調整及び暖房とストーブの併用)
2014年8月	トイレに人感センサーを設置し、電気の消し忘れ等の節電
2014年11月	(カローラ)ハイブリッドカーへ入替
2015年9月	(プリウス)ハイブリッドカーへ入替
2016年9月	水銀灯からLEDへ効率蛍光灯へ更新(第一工場加工場) 10本/10本 100%
2016年10月	(カローラ)ハイブリッドカーへ入替 仙台
2016年11月	空調機器入替による効率化、CO2、電力量削減(第三工場)
2017年3月	屋根断熱塗装による節電、CO2、電力量削減(第二工場)
2017年5月	(カローラ)ハイブリッドカー1台新規導入 仙台
2017年7月	空調機器室外機へ遮光シートを設置
2017年9月	(プリウス)ハイブリッドカーへ入替
2017年9月	第一工場加工場、LED高効率照明へ更新 20/50本 40%
2018年2月	新工場、LED高効率照明を設置 50/50本 100%
2018年5月	第三工場、LED効率照明に更新 50/132本 38%
2018年8月	第三工場シャッターへ遮光シートを設置
2019年5月	第三工場、省エネ空調機器導入
2019年8月	第三工場シャッターへ遮光シートを設置(追加)
2019年8月	事務所窓へ遮光シートを設置
2019年10月	事務所、省エネ空調機器導入

* 2019年度以降に導入・設置したものは次ページにて紹介

*現在、活動継続中(前頁より)	
導入・設置年月	省エネ対策内容
2020年6月	3F設計室、省エネ空調機器導入
2021年2月	仙台、省エネ高効率コンプレッサに更新
2021年2月	仙台 加工場、省エネ空調機器導入
2021年2月	3F設計室、LED高効率照明に更新 14/14本 100%
2021年6月	エアコンの入替_青梅事業所2F全体朝礼室3台交換
2021年6月	エアコンの入替_仙台事業所組立西側1台交換(省エネ対応)
2021年9月	照明のLED化_青梅事業所事務所48本中48本更新
2021年12月	エアコンの入替_青梅事業所1F配線場1台交換(省エネ対応)
2022年1月	社有車の入替(青梅事業所1台)
2022年6月	照明のLED化、仙台事業所51本更新
2022年7月	照明のLED化、青梅事業所44本更新
2022年9月	社有車の入替(青梅事業所1台)
2023年1月	照明のLED化、青梅事業所52本更新
2023年7月	エアコンの入替_青梅事業所 第一工場2F管理室
2024年4月	社有車の入替(仙台事業所1台)
2024年6,10月	照明のLED化、青梅事業所26本(6月)44本(10月)更新
	2025年度の活動内容は以下の通りです。

2025年度、活動内容の紹介

(1) 省エネルギーの推進(CO2削減)

- ①照明のLED化_第一工場4月実施(26本)、9月実施(44本)
- ②エアコンの入替_第一工場 応接室、商談室 6月実施
- ③社有車一台(青梅プリウスα)契約終了 8月
- ④フォークリフト一台仙台事業所の物をこちらに移し青梅にある旧フォークリフトを外部に売却 6月

■2025年度の電力削減効果実績 (2026/3/4現在計算値)

電力削減量 2,766Kwh
 年間効果金額 2,766Kwh × 17.5円 = 48,400円
 →TOTAL電力量削減比率 = 2,766Kwh / 195,823Kwh (2024年度TOTAL電力量実績) = 1.41%

CO2全体に占める電力量の割合は直近で84%
 →TOTAL CO2削減比率 = 1.41% × 84% = **1.18%削減** (中期目標1%削減)

・コンプレッサ室の遮光シート設置及び夏季不使用時エアコンブレーカOFFによる待機電力削減、毎月の活動(空調設定温度管理の徹底、照明、OA機器の節電、簡易間仕切り、作業エリアの分割等)も継続して行っております。

2026年度取組予定

- ・LED照明への更新拡大
- ・エアコンの入替_2F実験室
- ・3階窓枠更新北側(上期予定)

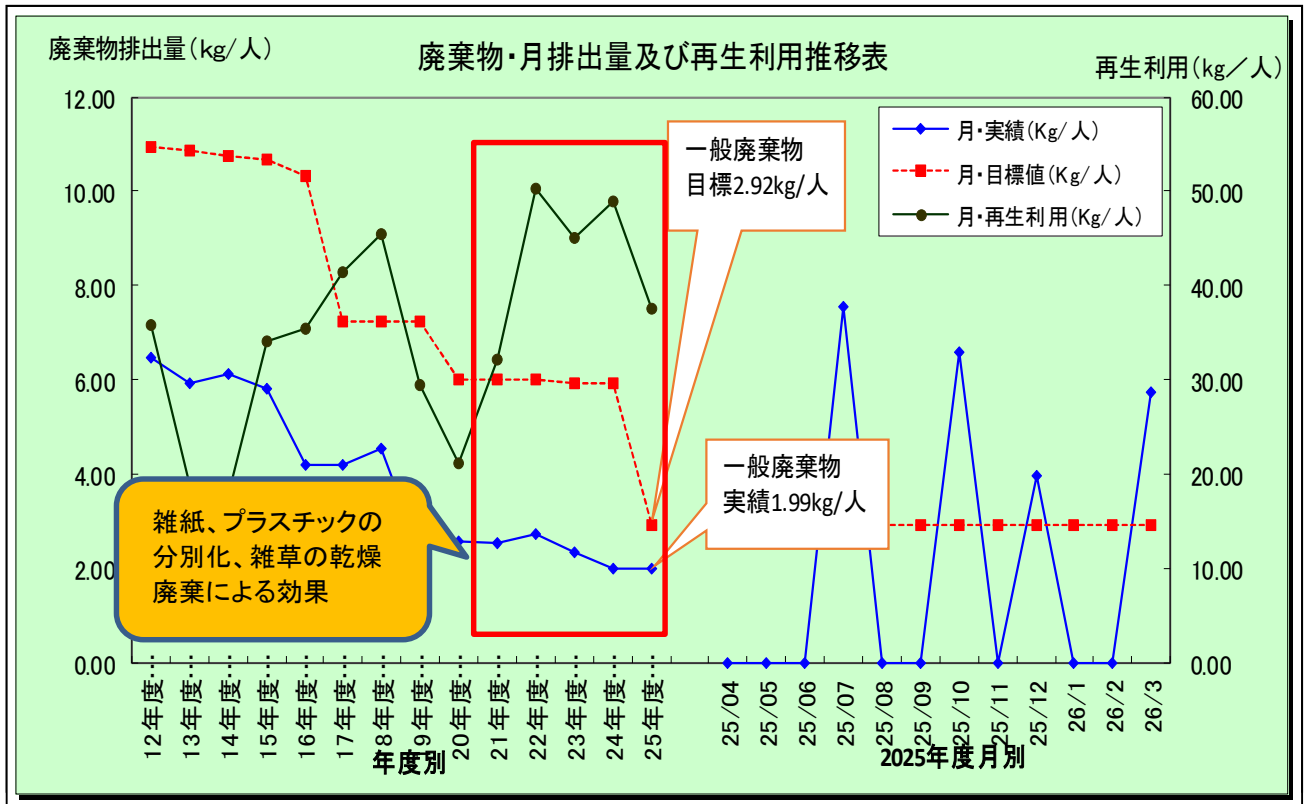


第三工場コンプレッサ室遮光シート設置
(CO2、電力量削減)

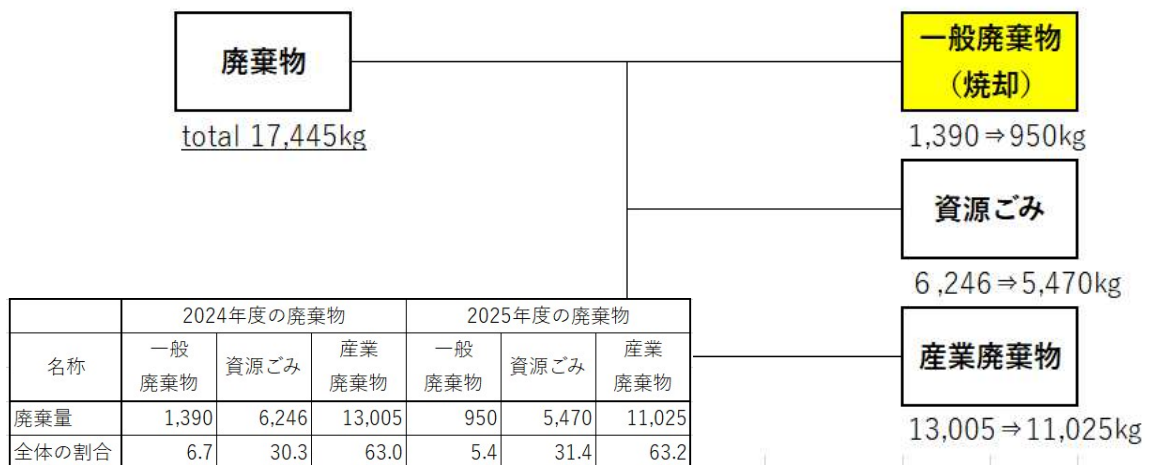
活動内容の紹介

(2) 廃棄物の削減・リサイクルの推進

*廃棄物の内訳



廃棄物の内訳 (2024⇒2025年度)



2025年度は一般廃棄物削減目標が月間2.92kg/人に対し実績値は1.99kg/人と目標を達成しました。一般廃棄物量が昨年1,390kgに対し950kgと減少（主要因は仙台事業所分廃棄物が無くなったためで24年度の実績が232kg）、廃棄物総数も2024年よりも3,196kgほど減少しており、“無駄な廃棄物を出さない”という習慣が身についてきたと考えられる。3種の廃棄物の割合も変わらず、ゴミの仕分けの徹底化が継続されている。

活動内容の紹介

(2) 廃棄物の削減・リサイクルの推進

2021年より一般廃棄物削減を目的に、社内外清掃時の落ち葉を回収し木箱に貯めて乾燥させゴミ袋への回収容量を約1/2の量まで削減させた。(年間48kgの削減)

また、本年度もごみの分別を継続し一般廃棄物を削減してゆく。

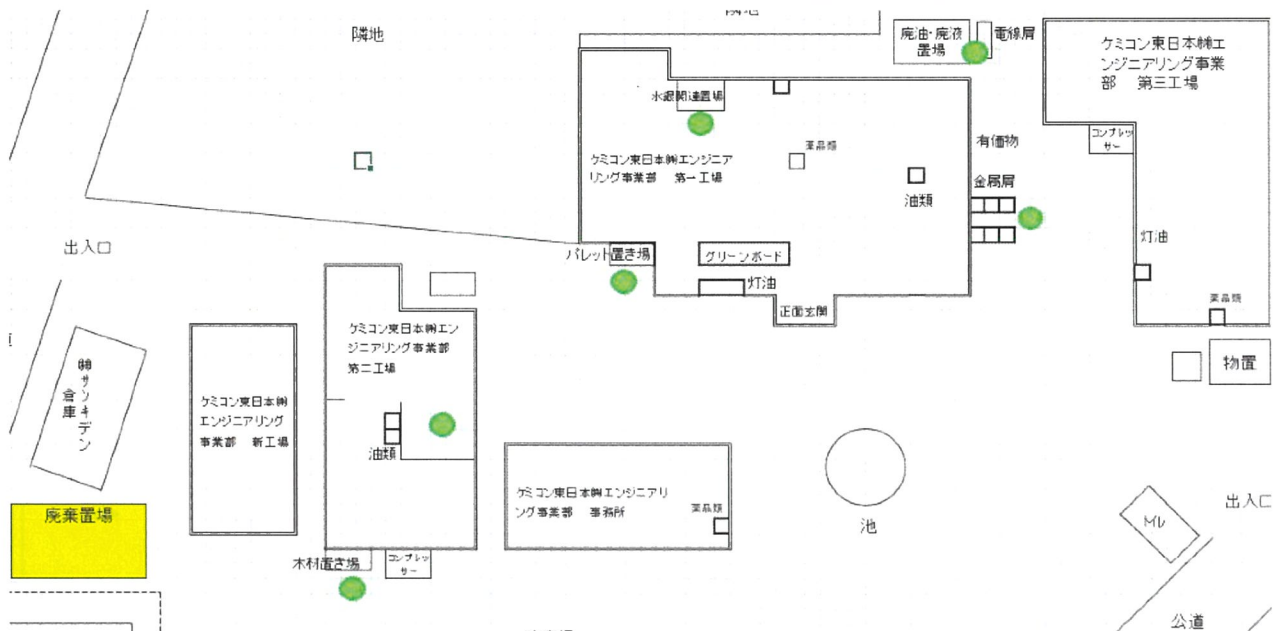
一般ゴミ: 昨年 1,390kg → 今年 950kg 廃棄物全数が昨年度より減少。仙台事業所分の廃棄物(昨年度は232kgの廃棄実績) 雑紙、プラスチックの分別化や雑草の乾燥化による廃棄量削減等がここ数年継続的に行われている

落ち葉、草の乾燥化によるごみ回収量の削減

	年度			
	2022	2023	2024	2025
乾燥前の袋回収数(袋)	8	13	29	27
乾燥後の袋回収数(袋)	4	7	16	14
削減枚数(袋)	4	6	13	13
削減量(kg)	53	55	90	48



ケミコン東日本(株)エンジニアリング事業部廃棄物置場レイアウト



活動内容の紹介

(2) 廃棄物の削減・3R(リデュース、リユース、リサイクル)の推進

廃棄物置場①～⑥の分別内容

1 段ボールの再利用緩衝材 梱包材の再利用 (リユース)



2 パレットの再利用(リユース)



3 木くずの分別廃棄→再資源化(リサイクル)

4 蛍光灯、乾電池の分別廃棄→再資源化(リサイクル)



5 鉄、ステンレス等有価物の分別廃棄 →再資源化(リサイクル)

6 草取りによって発生した廃棄物の廃棄手段変更
そのまま廃棄→乾燥(リデュース)



2020年11月より実施

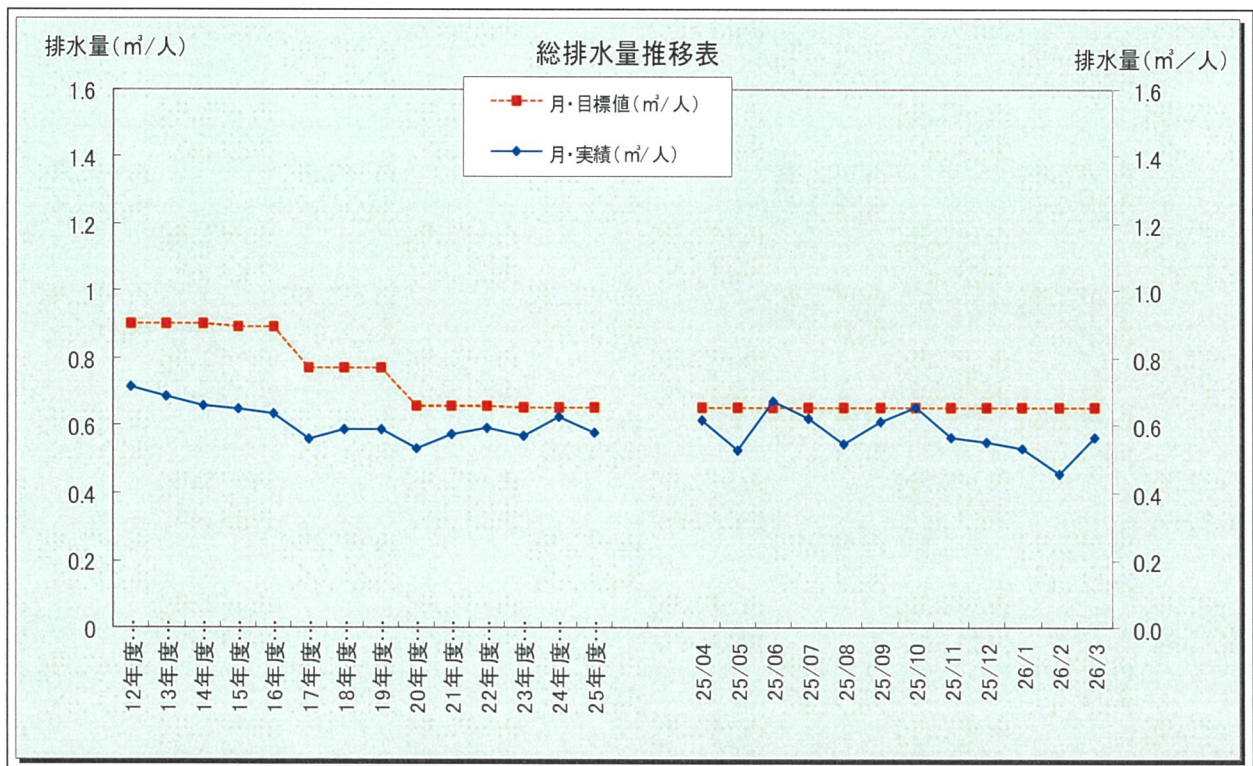
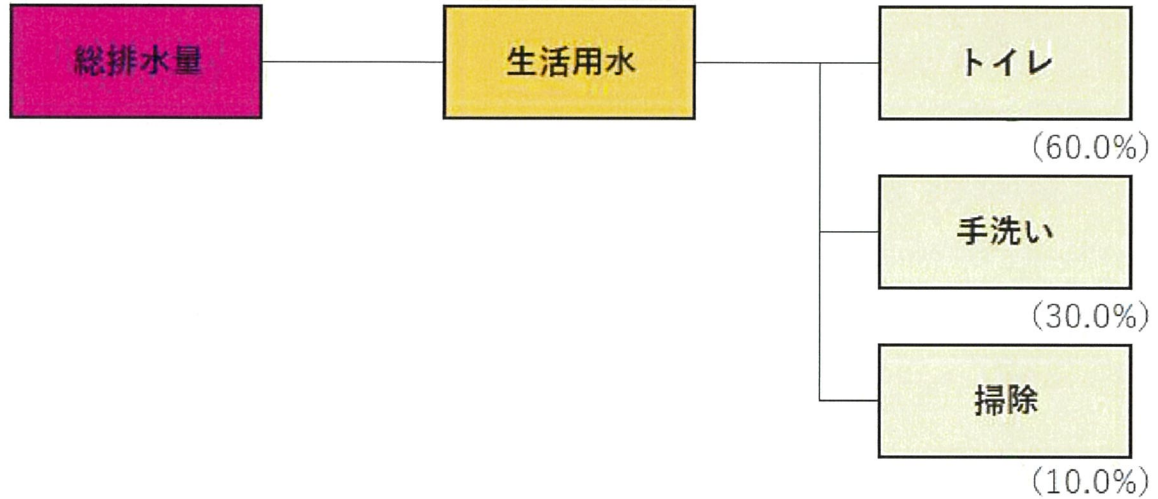
活動内容の紹介

(3) 水使用量の削減

総排水量の内訳

2025年度、総排水量は334.4m³

トイレ200.6m³、手洗い100.3m³、掃除33.4m³



2025年度は、総排水量は昨年420.9m³から今年334.4m³とかなり減少しておりますが、原因としましては一年を通して大きな水漏れが発生しなかったこと（昨年度の3⇒1回目標値を超えている）と仙台事業所分の使用量（昨年度の実績57.0m³）がなかったことです。パーヘッドでは2017年度以降ほぼ横ばいですが（大きな水漏れが無ければ）。対策としましては水漏れ点検を年4⇒6回に水道メータの点検を月2⇒3回に増やし大量の水漏れを早期発見し現状の使用量から増加防止を行います。100%生活用水のみですので削減は非常に厳しいかと思われませんが、ケミコングループ全体で水使用量の削減が求められており、弊社でも意識向上を図り、更なる節水へ務めていきたいと思っております。

活動内容の紹介

(3) 水使用量の削減

*節水対策

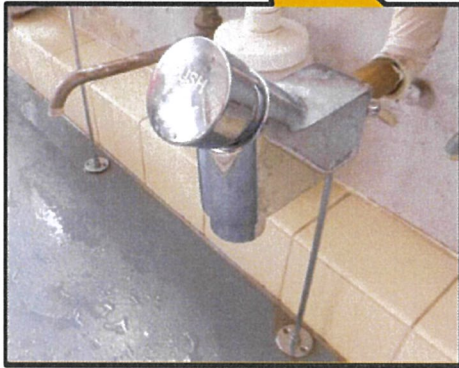
2020年度9月より、無駄な水使用を削減するべく、蛇口1ヶに1枚手順書を添付し従業員に意識付けを行っております。



効率の良い手洗い手順書を蛇口付近に添付

2020年9月導入

水道メータ点検シート



2025年度より月2→月3回の点検に。水漏れの早期発見対応

プッシュ式蛇口に変更(手洗い場全数)

2020年11月導入

第一工場手洗い場へ節水用バブル90を設置: 性能的に50%削減可能

蛇口等からの水漏れ点検シート

2025年度より年4⇒年6回の点検に。水漏れの早期発見対応

埋設配管点検シート

2016年度より開始

活動内容の紹介

(4) 化学物質の管理



危険物保管庫による薬品管理

緊急時対応手順書



油類置き場

新たな化学物質を使用していないかチェック

化学物質一覽表

品名	用途	危険性	燃点	引火点	沸点	比重	蒸気圧	溶解性	毒性	環境影響	取扱い	廃棄
メタノール	洗浄	可燃性	11	11	65	0.79	127	互に混和	急性中毒	水生生物に有害	換気	可燃性廃棄
エタノール	洗浄	可燃性	12	12	78	0.79	5.9	互に混和	急性中毒	水生生物に有害	換気	可燃性廃棄
イソプロピルアルコール	洗浄	可燃性	12	12	82	0.80	4.4	互に混和	急性中毒	水生生物に有害	換気	可燃性廃棄
アセトン	洗浄	可燃性	10	10	56	0.79	240	互に混和	急性中毒	水生生物に有害	換気	可燃性廃棄
トルエン	洗浄	可燃性	4	4	110	0.87	28	互に混和	急性中毒	水生生物に有害	換気	可燃性廃棄
キシレン	洗浄	可燃性	3	3	138	0.86	11	互に混和	急性中毒	水生生物に有害	換気	可燃性廃棄
塩化メチレン	洗浄	可燃性	2	2	40	1.33	107	互に混和	急性中毒	水生生物に有害	換気	可燃性廃棄
塩化エチレン	洗浄	可燃性	2	2	68	1.26	80	互に混和	急性中毒	水生生物に有害	換気	可燃性廃棄
塩化ブチレン	洗浄	可燃性	2	2	126	0.88	11	互に混和	急性中毒	水生生物に有害	換気	可燃性廃棄
塩化ヘキサフルオロイソプロピル	洗浄	可燃性	2	2	133	1.89	0.0001	互に混和	急性中毒	水生生物に有害	換気	可燃性廃棄
塩化トリフルオロメチル	洗浄	可燃性	2	2	24	1.38	0.0001	互に混和	急性中毒	水生生物に有害	換気	可燃性廃棄
塩化トリフルオロエチル	洗浄	可燃性	2	2	37	1.89	0.0001	互に混和	急性中毒	水生生物に有害	換気	可燃性廃棄
塩化トリフルオロプロピル	洗浄	可燃性	2	2	36	1.89	0.0001	互に混和	急性中毒	水生生物に有害	換気	可燃性廃棄
塩化トリフルオロブチル	洗浄	可燃性	2	2	35	1.89	0.0001	互に混和	急性中毒	水生生物に有害	換気	可燃性廃棄
塩化トリフルオロペンチル	洗浄	可燃性	2	2	34	1.89	0.0001	互に混和	急性中毒	水生生物に有害	換気	可燃性廃棄
塩化トリフルオロヘキシル	洗浄	可燃性	2	2	33	1.89	0.0001	互に混和	急性中毒	水生生物に有害	換気	可燃性廃棄
塩化トリフルオロヘプチル	洗浄	可燃性	2	2	32	1.89	0.0001	互に混和	急性中毒	水生生物に有害	換気	可燃性廃棄
塩化トリフルオロオクチル	洗浄	可燃性	2	2	31	1.89	0.0001	互に混和	急性中毒	水生生物に有害	換気	可燃性廃棄
塩化トリフルオロノニル	洗浄	可燃性	2	2	30	1.89	0.0001	互に混和	急性中毒	水生生物に有害	換気	可燃性廃棄
塩化トリフルオロデシル	洗浄	可燃性	2	2	29	1.89	0.0001	互に混和	急性中毒	水生生物に有害	換気	可燃性廃棄
塩化トリフルオロウンデシル	洗浄	可燃性	2	2	28	1.89	0.0001	互に混和	急性中毒	水生生物に有害	換気	可燃性廃棄
塩化トリフルオロドodeシル	洗浄	可燃性	2	2	27	1.89	0.0001	互に混和	急性中毒	水生生物に有害	換気	可燃性廃棄
塩化トリフルオロトリデシル	洗浄	可燃性	2	2	26	1.89	0.0001	互に混和	急性中毒	水生生物に有害	換気	可燃性廃棄
塩化トリフルオロテトラデシル	洗浄	可燃性	2	2	25	1.89	0.0001	互に混和	急性中毒	水生生物に有害	換気	可燃性廃棄
塩化トリフルオロペンタデシル	洗浄	可燃性	2	2	24	1.89	0.0001	互に混和	急性中毒	水生生物に有害	換気	可燃性廃棄
塩化トリフルオロヘキサデシル	洗浄	可燃性	2	2	23	1.89	0.0001	互に混和	急性中毒	水生生物に有害	換気	可燃性廃棄
塩化トリフルオロヘプタデシル	洗浄	可燃性	2	2	22	1.89	0.0001	互に混和	急性中毒	水生生物に有害	換気	可燃性廃棄
塩化トリフルオロオクタデシル	洗浄	可燃性	2	2	21	1.89	0.0001	互に混和	急性中毒	水生生物に有害	換気	可燃性廃棄
塩化トリフルオロノニラデシル	洗浄	可燃性	2	2	20	1.89	0.0001	互に混和	急性中毒	水生生物に有害	換気	可燃性廃棄
塩化トリフルオロドodeカデシル	洗浄	可燃性	2	2	19	1.89	0.0001	互に混和	急性中毒	水生生物に有害	換気	可燃性廃棄
塩化トリフルオロトリデカデシル	洗浄	可燃性	2	2	18	1.89	0.0001	互に混和	急性中毒	水生生物に有害	換気	可燃性廃棄
塩化トリフルオロテトラデカデシル	洗浄	可燃性	2	2	17	1.89	0.0001	互に混和	急性中毒	水生生物に有害	換気	可燃性廃棄
塩化トリフルオロペンタデカデシル	洗浄	可燃性	2	2	16	1.89	0.0001	互に混和	急性中毒	水生生物に有害	換気	可燃性廃棄
塩化トリフルオロヘキサデカデシル	洗浄	可燃性	2	2	15	1.89	0.0001	互に混和	急性中毒	水生生物に有害	換気	可燃性廃棄
塩化トリフルオロヘプタデカデシル	洗浄	可燃性	2	2	14	1.89	0.0001	互に混和	急性中毒	水生生物に有害	換気	可燃性廃棄
塩化トリフルオロオクタデカデシル	洗浄	可燃性	2	2	13	1.89	0.0001	互に混和	急性中毒	水生生物に有害	換気	可燃性廃棄
塩化トリフルオロノニラデカデシル	洗浄	可燃性	2	2	12	1.89	0.0001	互に混和	急性中毒	水生生物に有害	換気	可燃性廃棄
塩化トリフルオロドodeカデカデシル	洗浄	可燃性	2	2	11	1.89	0.0001	互に混和	急性中毒	水生生物に有害	換気	可燃性廃棄
塩化トリフルオロトリデカデカデシル	洗浄	可燃性	2	2	10	1.89	0.0001	互に混和	急性中毒	水生生物に有害	換気	可燃性廃棄
塩化トリフルオロテトラデカデカデシル	洗浄	可燃性	2	2	9	1.89	0.0001	互に混和	急性中毒	水生生物に有害	換気	可燃性廃棄
塩化トリフルオロペンタデカデカデシル	洗浄	可燃性	2	2	8	1.89	0.0001	互に混和	急性中毒	水生生物に有害	換気	可燃性廃棄
塩化トリフルオロヘキサデカデカデシル	洗浄	可燃性	2	2	7	1.89	0.0001	互に混和	急性中毒	水生生物に有害	換気	可燃性廃棄
塩化トリフルオロヘプタデカデカデシル	洗浄	可燃性	2	2	6	1.89	0.0001	互に混和	急性中毒	水生生物に有害	換気	可燃性廃棄
塩化トリフルオロオクタデカデカデシル	洗浄	可燃性	2	2	5	1.89	0.0001	互に混和	急性中毒	水生生物に有害	換気	可燃性廃棄
塩化トリフルオロノニラデカデカデシル	洗浄	可燃性	2	2	4	1.89	0.0001	互に混和	急性中毒	水生生物に有害	換気	可燃性廃棄
塩化トリフルオロドodeカデカデカデシル	洗浄	可燃性	2	2	3	1.89	0.0001	互に混和	急性中毒	水生生物に有害	換気	可燃性廃棄
塩化トリフルオロトリデカデカデカデシル	洗浄	可燃性	2	2	2	1.89	0.0001	互に混和	急性中毒	水生生物に有害	換気	可燃性廃棄
塩化トリフルオロテトラデカデカデカデシル	洗浄	可燃性	2	2	1	1.89	0.0001	互に混和	急性中毒	水生生物に有害	換気	可燃性廃棄

年2回、化学物質の在庫状況をチェックして一覽表を更新し、毎月各部屋の薬品棚をチェックし、身体に有害な物質を使用していないか、法を遵守しているかを確認。

毎月の点検を実施

油類保管点検シート

油類点検記録

文書番号 CE-362-26A

年 月 実施日 点検頻度: 1回/月 点検日: 月の中旬頃 承認: 1回/月 提出部門: 生産0

重要: 異常時は、直ちに責任者に連絡し、通報し、同時に異常記録(CE-110-3、12、4、CE-364)の記入。
対象: 油類置場(第1工場加工場)

点検日	月	日	点検担当者

点検項目	OK	NG	特記事項
防油堤(オイルパン)の漏洩・亀裂無きこと			
警告の表示無きこと			
表示の欠損無きこと			
蓋の蓋が、汚有無きこと			
漏洩、清掃されていること			
SDSに取付の無い事			
異常防止部材の手紙、異常防止マシの劣化確認			※手紙は購入後5年の交換目安とし、ひび割れ、穴あき等の劣化の無いことを確認する。劣化が認められた場合は交換すること。破棄マシは期限無しが、劣化が認められた場合は交換。

対象: 油類置場(第2工場加工場)

点検日	月	日	点検担当者

点検項目	OK	NG	特記事項
防油堤(オイルパン)の漏洩・亀裂無きこと			
警告の表示無きこと			
表示の欠損無きこと			
蓋の蓋が、汚有無きこと			
漏洩、清掃されていること			
SDSに取付の無い事			
異常防止部材の手紙、異常防止マシの劣化確認			※手紙は購入後5年の交換目安とし、ひび割れ、穴あき等の劣化の無いことを確認する。劣化が認められた場合は交換すること。破棄マシは期限無しが、劣化が認められた場合は交換。

対象: 油類置場(第3工場組立場)

点検日	月	日	点検担当者

点検項目	OK	NG	特記事項
防油堤(オイルパン)の漏洩・亀裂無きこと			
警告の表示無きこと			
表示の欠損無きこと			
蓋の蓋が、汚有無きこと			
漏洩、清掃されていること			
SDSに取付の無い事			
異常防止部材の手紙、異常防止マシの劣化確認			※手紙は購入後5年の交換目安とし、ひび割れ、穴あき等の劣化の無いことを確認する。劣化が認められた場合は交換すること。破棄マシは期限無しが、劣化が認められた場合は交換。

※確認: 環境管理責任者、承認: 1: 提出者上司(グループ長)、承認: 事業部長

※3: 東日本(株)エンジニアリング事業部

毎月、薬品・油類、灯油置場等の定期点検を実施し記録簿へ記載。

活動内容の紹介

(7) 生物多様性への対応



清掃前



清掃後

25年11月巣箱清掃後を行い営業前の準備をした。

2017.05、モッコクの木(2本)植樹全長360cmほどに成長 剪定等手入れを行い管理
写真撮影(2026年春)



25年7月 第一工場入り口につばめが営巣しました。(5羽羽化)



生物多様性についての勉強会を開催2025.12実施

活動内容の紹介

(8) その他

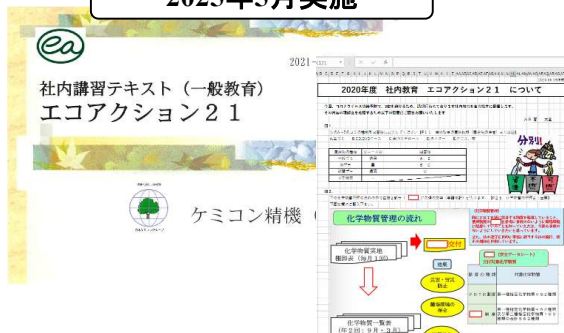
● 社員への教育・訓練

2008..4 スタート

環境教育名 (内容概略)	対 象	教育サイクル	2025年度実施状況
入社・異動時教育 (環境への取組み、方針、他)	新入社員、異動者	発生の都度	8月、2名 9月、1名 1月、2名
一般教育 (方針、目標、経営計画、各自の役割・権限・責任他)	全従業員	年1回	5月、35名
環境関連従事者教育 (法規制、遵守手順他)	関連従業員	年1回	1月、7名
緊急時対応教育訓練 (対応手順テスト、訓練他)	関連従業員	年1回	12月、18名
環境法規遵守状況を評価する者への教育 (外部機関への研修会参加、関係書籍の通読等)	環境管理責任者	年1回	2月 環境事故勉強会に出席
内部監査員教育 (マニュアル、監査内容、試験他)	対象従業員	欠員が出た都度	5月、1名
労働安全衛生教育、一般教育 (加工機械使用時の注意事項、実技指導他)	対象従業員	年1回	10月、29名
一般教育 教育DVDを視聴し環境に対する意識を高める(資料:教育動画 生物多様性って何?)	全従業員	年1回	12月、40名

内部監査できる資格者を増員中

2025年5月実施



一般教育(エコアクション社内教育実施)

2025年12月実施



緊急時対応教育訓練(油类等流出時対応訓練実施)



労働安全衛生教育(工作機械使用時の注意事項、実技指導)

活動内容の紹介

(8)その他

●社会貢献活動(ボランティア活動)

青梅市内美化活動，健康促進活動の一環として、10月に市内を清掃しながらのウォーキングを実施。



9. 環境関連法規等の遵守状況の確認 及び違反、訴訟等の有無

当社の2025年度における環境関連の適用法令に基づく遵守状況の確認結果の概要は以下の通りであった。(2025年7月18日確認)

1) 青梅事業所

関連法令	該当する活動	遵守状況
騒音規制法	規制基準の遵守	適合
	特定施設の届出	適合
振動規制法	規制基準の遵守	適合
	特定施設の届出	適合
廃棄物の処理及び 清掃に関する法律	産業廃棄物の適正保管	適合
	産業廃棄物の適正処分 (運搬、処理の委託)	適合
	マニフェスト管理	適合
労働安全衛生法	安全衛生推進者の選任	適合
	ボイラー及び圧力容器安全規則 (第二種圧力容器の定期自主検査)	適合
フロン排出抑制法	対象機器の簡易点検・定期点検	適合
土壌汚染対策法	土地の一定規模以上(900㎡以上)の 形質変更がある場合の届出義務	適合
道路交通法	安全運転管理者等選任、解任	適合

※上記の通り環境に関連する法令について確認した結果不適合はありませんでした。
また、2025年度において近隣・行政等の利害関係者より環境に関する苦情、訴訟はありませんでした。

10. 代表者による全体評価と見直しの結果

【代表者のコメント】

2025年度は、3か年計画の最終年度でもありましたが、環境活動の取組結果としては、目標を達成し十分な活動内容となりました。

当事業部は、旧ケミコン精機(株)がケミコン東日本(株)に吸収合併されて出来た部門で、合併から2年半が経過しました。

合併後も環境活動の取り組みについては、これまで通りエコアクション21ガイドライン2017年版改定に準拠した内容にて、親会社である日本ケミコン(株)の方針に基づき、管理部/環境グループとの密な情報交換を通じて、活動を継続しております。

2025年度の市場環境として、ICT関連は米国IT大手によるデータセンターへの投資が継続し、生成AIサーバー及び周辺機器の需要が堅調に推移、一方、自動車関連市場は米国の関税政策の動向等の影響から、需要の回復が鈍化、低調な推移となりました。そのような中で日本ケミコングループは、安定的な成長が見込まれるAIサーバーを含むサーバー需要向けの拡販に注力し、大形アルミ電解コンデンサやハイブリットコンデンサの生産能力の増強を進めてきました。当事業部での設備製作においても、一部投資抑制の影響もあり繁閑の差がありましたが、年度末からは多忙な状況が続いております。

環境活動に関しては、省エネルギーの推進、廃棄物の削減、水使用量の削減、自社製品の環境配慮に対して深掘を行うなど、継続した取り組みを実施してきました。

結果としても活動に対する全従業員の意識の定着や積極的な参画により目標達成することができました。

2026年度は、中東情勢の影響が一部懸念される中、サーバー需要向けの増産対応として、積極的な設備投資が計画されており、設備製作において非常に多忙となる事が想定されますが、3か年計画の初年度になりますので、環境経営計画の目標値設定をしっかりと行い、その目標達成に向けて全従業員参加での活発な活動を進めて環境負荷の低減につなげていきます。